

札幌市緑の審議会
第3回緑の基本計画部会

札幌市緑の基本計画の検討資料

平成 21 年 11 月 11 日

構成案

はじめに

札幌市緑の基本計画とは	2
第二次改定の背景と目的	2
計画の位置づけ	3
計画対象	3
目標年次	3
みどりの定義	3
さっぽろのみどりのはたらき	3

計画の体系

計画の体系	5
計画の基本理念	6
みどりの将来像	7
みどりの将来像図[全体配置]	7
目標	8

推進プログラム

推進プログラム柱 1 市民などとの協働の推進	9
推進プログラム柱 2 街中のみどりの創出とネットワークづくり	1 4
推進プログラム柱 3 街をとりまく緑の保全・活用とネットワークづくり	1 9
推進プログラム柱 4 公園の魅力の向上	2 4

(仮)協働による活動の取組み

協働による活動の取組みについて	2 8
地域のみどりづくりや守り・育てる担い手の主な役割	2 8
住宅地での活動の取組み	2 9
商業・業務地での活動の取組み	3 2
川沿いでの活動の取組み	3 4
里山・里地での活動の取組み	3 5

計画の進行管理

計画の進行管理	3 8
---------	-----

はじめに

札幌市緑の基本計画とは

緑の基本計画
市町村が策定する「緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」の通称。1994年の都市緑地保全法（現・都市緑地法）改正で創設され、樹林地、草地、水辺地など都市における緑地の適正な保全と緑化の推進方策に関する目標や講ずる施策について定める緑に関する総合的な計画。緑地の配置の方針や緑地保全地区内の緑地の保全に関することなど地域の実情に応じて定めることとなっている。

環境意識の高まりや少子高齢化の進展、災害に強いまちづくりの推進など、社会を取り巻くさまざまな課題のなか、地球規模の自然環境の保全や共生、安全で快適な生活環境づくりといった、みどりに寄せる期待や役割は、今後もますます大きくなります。

札幌は、多様な動植物相に恵まれたわが国でも有数の大都市を形成しており、将来にわたって自然と調和したみどり溢れるまちとして、幾世代にも住み継がれていく都市環境を守っていくことは、今日の我々に課せられた使命です。

こういったなか、札幌市緑の基本計画は、これからの時代に向けて環境保全、防災、景観形成、レクリエーションといったみどりが持つさまざまな機能を十分発揮させるとともに、長期的なみどりの将来像を見据えながらその保全・創出を進めていくといった、次代のみどり豊かな札幌のまちづくりのための総合的な指針となるものです。

また、みどり豊かなさっぽろのまちづくりを推進するためには、行政の施策や取り組みのみではなく、市民の参画や協働によるみどりにかかわる活動を実践する必要があることから、この緑の基本計画は、190万人市民一人ひとりの活動の道しるべになるものです。

第二次改定の背景と目的

本市では、札幌市都市緑化推進条例（現・緑の保全と創出に関する条例）に基づいて、昭和57年（1982年）に「札幌市の緑の基本計画」を策定し、緑化の推進に努めてきました。

その後、平成6年（1994年）に都市緑地保全法（現・都市緑地法）が改正され、「緑の基本計画」が法的に位置づけられたことを受け、平成11年（1999年）6月に17年ぶりに「札幌市の緑の基本計画」を改訂し、「人とみどりが輝くさっぽろ」を基本理念として、計画実現に向け、さまざまな機会を通じて市民とともにみどりづくりに取り組み、策定後10年以上を経過して、一定程度の成果をあげてきました。

一方この間、景観緑三法の制定のほか、地球温暖化対策推進大綱、ヒートアイランド対策大綱、第3次生物多様性国家戦略の閣議決定などが行われるなど、地球環境保全の取り組みの重要性が増し、緑を取り巻く社会的状況が大きく変化しており、緑の基本計画においてもその変化に対応する必要があります。

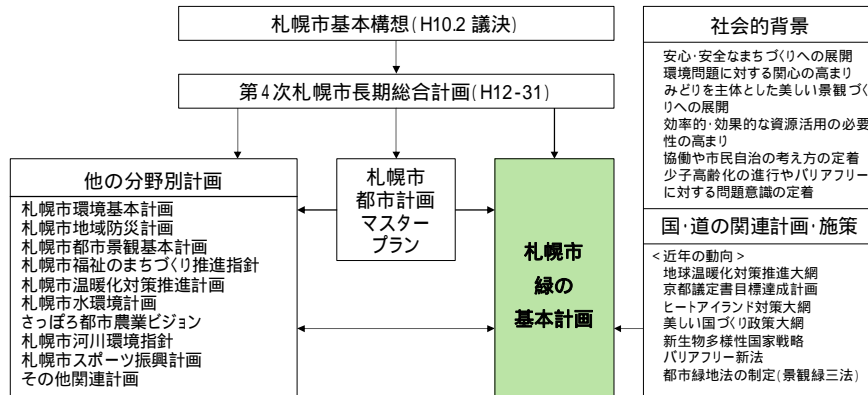
さらに、札幌市では平成19（2007年）年4月に「自治基本条例」を施行、平成20年（2008年）6月に世界に誇れる環境都市を目指す「環境首都・札幌」宣言を行い、「市民が主役のまちづくり」と「地球環境問題への対応」を市政の最重要課題の一つと位置づけました。

以上の点を踏まえながら、「札幌市緑の基本計画」を再度見直し、充実させ、「札幌市緑の基本計画第二次改定」として策定しました。

計画の位置づけ

上位計画である「札幌市基本構想」、「札幌市長期総合計画」や、「札幌市都市計画マスタープラン」、「札幌市環境基本計画」との整合を図るほか、その他の分野別計画とも整合を図り、みどり豊かな札幌のまちづくりを総合的に推進するための指針として位置づけます。

札幌市緑の基本計画の位置づけ



計画対象

この計画では、公園や公共地のみどりだけでなく、民有地を含む札幌のまちのすべてのみどりと、みどりづくりを対象とします。

目標年次

この計画では、上位計画である第4次札幌市長期総合計画の目標年次にあわせ、計画目標年を概ね平成32年(2020年)として見直します。

みどりの定義

この計画では、札幌市内における公園、緑地、森林、草地、農地、河川・水面、及び民有地や公共施設などの緑地や緑被されたオープンスペース、また、樹木や草花(コンテナや鉢などに植えられたものも含む)などを包括する言葉として、漢字の「緑」として固有名詞標記や緑化などの熟語などを除き、平仮名の「みどり」を用います。

さっぽろのみどりはたらき

- 都市環境、地球環境を保全・改善する
- ・樹木が増えることによりCO₂の低減や水源かん養につながります。
 - ・樹木が配置されることで、大気の浄化や水質保全、ヒートアイランド現象の抑制につながります。
 - ・まちを取り巻くみどり及び市街地のみどりが保全・創出・ネットワーク化されることで、多様な動植物の生育・生息・移動空間が保全されます。
 - ・みどりのリサイクルの取組みが、循環型の都市形成に寄与します。

札幌らしい景観をつくりだす

- ・藻岩山や豊平川といった、まちを取り巻く山並み、河川、草地などがまちに潤いを与え、札幌市を特徴づける風景・景観を形成します。
- ・北国の気候、風土に適した樹木や花が、四季を通じて街並みを彩り、地域の歴史的なみどりやシンボリックなみどりを保全・創出することで、地域ごとの個性的な景観を創出します。

安全・安心な都市基盤を形成する

- ・公園緑地をはじめとするオープンスペースは、災害時の避難地、避難路、延焼防止帯として機能しています。これらを適切に配置・ネットワーク化することで、広域防災拠点などとして重要な機能を果たし、市民の安全性や安心感を高めます。
- ・雪の置く場所として機能するなどのオープンスペースが、快適な冬の暮らしを実現します。
- ・森林や緑地は、地すべりや市街地の水害の防止のほか、騒音や振動の緩和にもつながる健全な生活空間を担保します。

人々のさまざまな活動の場となる

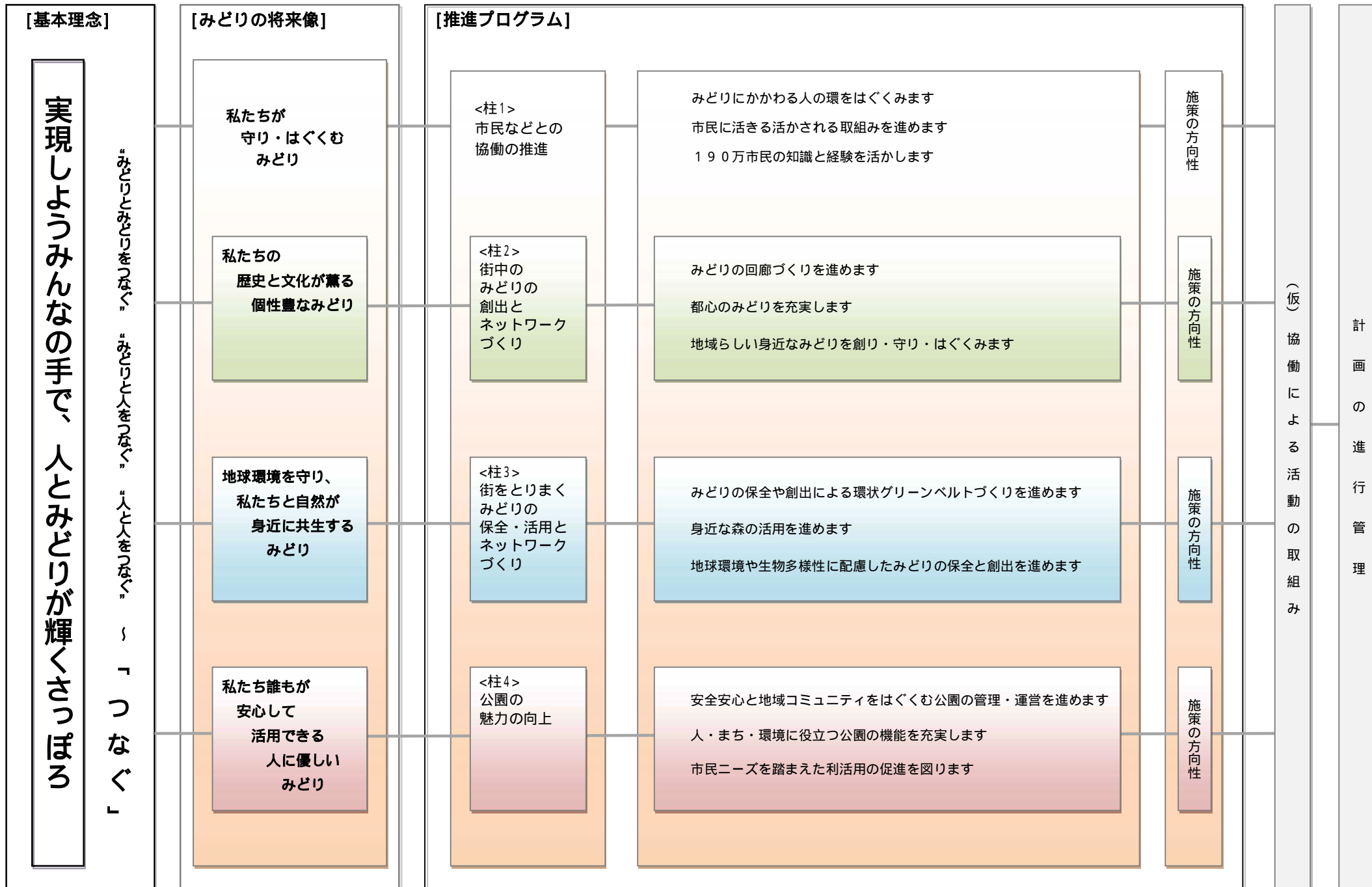
- ・公園緑地などは、市民の健康増進につながる、スポーツ、レクリエーション、休養、散策などの余暇活動の場となります。
- ・余暇時間の増大、価値観の多様化などに伴う、園芸活動や自然に親しむライフスタイルのフィールドとなります。
- ・家庭や学校、地域における自然教育、自然体験などの学習機会の場となります。

人々をつなぎ、まちに活力をもたらす

- ・公園や緑地といったみどりを通じて人と人とがつながり、コミュニティを醸成します。
- ・みどりを通したコミュニティがより大きなつながりやネットワークをはぐくむことで、まちに活力や住みやすさをもたらします。

計画の体系

計画の体系



計画の基本理念

実現しようみんなの手で 人とみどりが輝くさっぽろ

地球環境にとって大切なみどりを、わたしたちの手で守り育て、そして、次世代へつないでいきます。

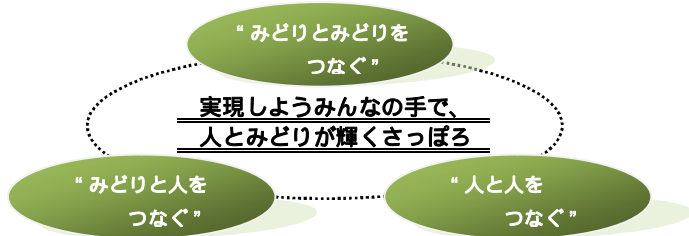
札幌市が毎年実施している郷土意識に関する市民意識調査によると、「札幌の街が好き」という市民は9割を超え、その理由としては「緑が多く自然豊か」が上位となっており、緑豊かな街は市民の誇りであるとともに、生活にうるおいや安らぎを与えてくれます。

このことに加え、地球環境問題への取組みが市政の重要課題となっていることから、世界に誇れる環境都市として豊かな自然と調和したまちづくりを目指し、私たちの貴重なみどりを守り・育てていくとともに、未来の札幌を担う子どもたちにつなげていくことを計画の基本理念とします。

また、この計画の推進に際しては、いまあるみどりを残し・増やすことによるみどりとみどりのつながりや、市民がみどりを守り・育てることによるみどりと人のつながりのほか、みどりの活動を通じた人と人のつながりをはぐくみます。

基本理念のイメージ

みどりの保全や創出により、市街地やそれととりまくみどりのネットワークづくりを進めます。



みどりとふれあう場や機会の充実を図り、市民がみどりを守り・育て・活かす心とかわりをはぐくみます。

人材育成や環境教育の推進、交流・情報発信の充実を図り、みどりをきっかけとした人のネットワークづくりを進めます。

<参考>「つなぐ」のイメージ

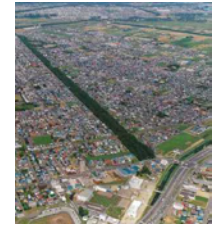
みどりとみどりを つなぐ



豊平川



大通公園



ポプラ通

札幌の骨格となるみどりづくり
私たちの身近なみどりづくり

地域をつなぐ特徴あるみどりづくり

みどりと人を つなぐ



スズランの保全活動



フラワーロードづくり



コミュニティガーデンづくり

みどりとふれあう場・機会・協働の場の充実

自主的な活動の積極的な支援

人と人を つなぐ



市民ワークショップ



人材育成講習会



交流拠点での活動

人材育成・環境教育の推進

交流・情報ネットワークの充実

みどりの将来像

札幌は、基本理念である「実現しようみんなの手で、人とみどりが輝くさっぽろ」を受け、以下の4つを目指すべきみどりの将来像とします。

私たちが守り・はぐくむみどり

私たちの生活において欠かすことのできないみどりを、一人ひとりが楽しみ協力しながら守り育てていくことを目指します。

私たちの歴史と文化が薫る個性豊かなみどり

みどりに囲まれた暮らしの空間のなかで、みどりを楽しむ生活文化をはぐくむとともに、歴史や文化を生かした個性ある地域のみどりを守り育て、ゆとりと安らぎのあるみどり豊かな地域づくりを目指します。

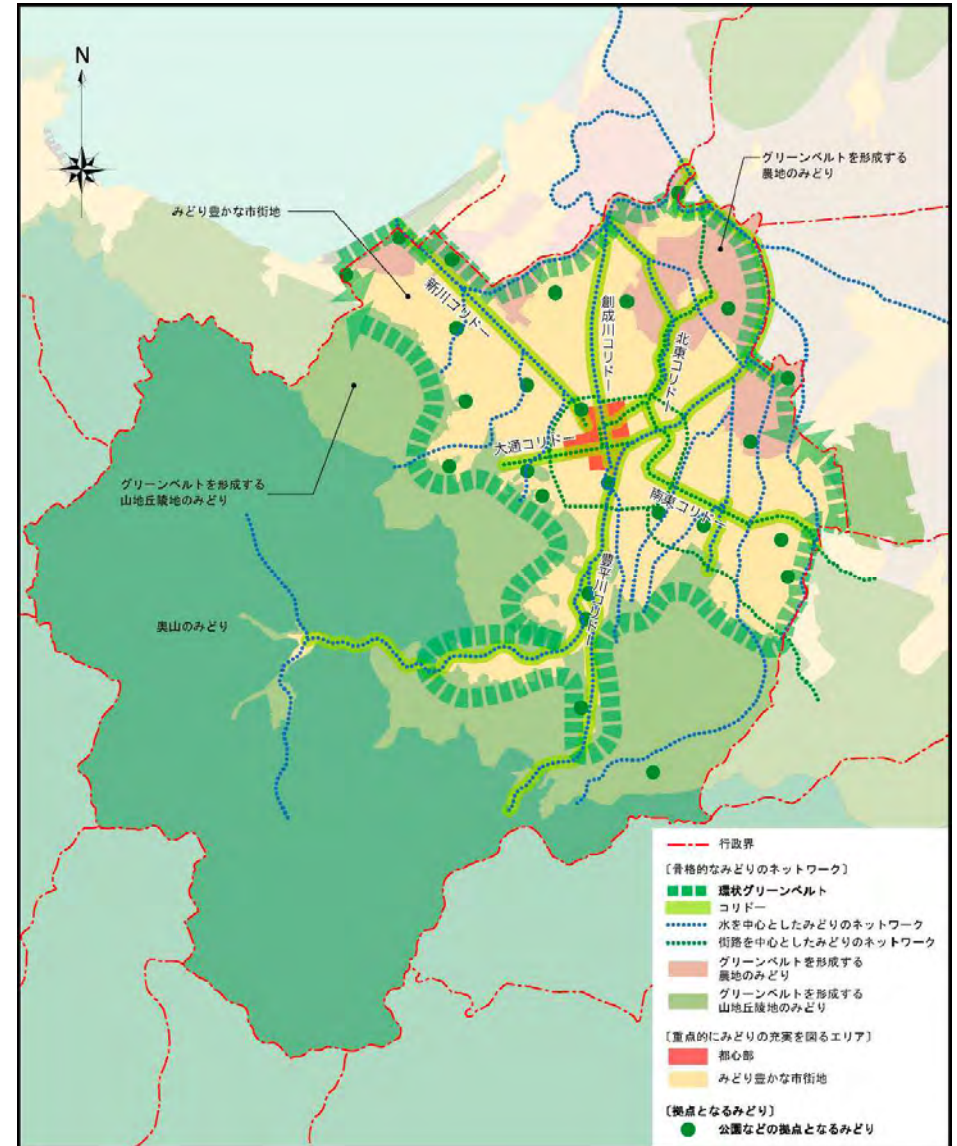
地球環境を守り、私たちと自然が身近に共生するみどり


私たちの生活にうるおいと安らぎをもたらす山並みや緑地・農地のほか、河川などの身近なみどりを守り育てていくことで、地球環境や生物の多様性が保全される自然環境の連続化を目指します。

私たち誰もが安心して活用できる人に優しいみどり

ユニバーサルデザインによる公園緑地づくりの定着と、誰もが活用できる人に優しい公園緑地を目指します。

みどりの将来像図 [全体配置]



現状 グリーンベルト	将来像	都心部	将来像
	市街地周辺の環境保全のため、みどりのオープンスペースのネットワークづくりが推進され、多様な生物をはぐくむ札幌らしい山並みを変わず眺めることができる。また、CO2削減など大気浄化に貢献します。		みどりが戦略的に保全・創出され、札幌の顔となる都心部における樹木や花を主体とした美しい景観が形成されます。
コリドー	将来像	みどり豊かな市街地	将来像
	まちの周辺のみどりが保全・創出・連続化され、特色ある景観をつくり、地域を特徴づけます。また、多様な生物の生態系が保全されます。		先導的に公共施設や緑化重点地区によって緑化を進めることで、札幌らしい樹木や花が街並みに彩りを与え、うるおいのある市街地景観が形成されます。
水を中心としたみどりのネットワーク	将来像	公園などの拠点となるみどり	将来像
	河川周辺のみどりと市内に存在するみどりが、河川などでネットワークされ、生物の移動空間が確保されます。		公園内の適正な樹木更新や植栽配置などにより、都市景観や環境保全に配慮された公園づくりが進められます。また、併せて効果的な防災機能の充実が図られます。
街路を中心としたみどりのネットワーク	将来像		
	街路の樹木が増えるとともに適正に配置されることで、景観整序が図られ、快適な歩行空間が形成されます。		

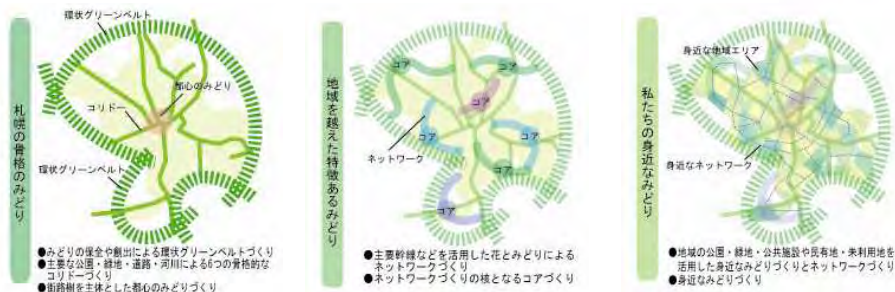
目標(素案)

札幌市が目指すべきみどりの将来像を実現するため、みどり全般をとらえた以下の 3つの目標を設定しています。

<目標>

- ・全市における緑の総量の維持(緑被率)
- ・担保された緑の量
- ・樹林率
- ・ネットワークの数(みどりの延長、人)
- ・札幌が好きな理由として「緑が多く自然が豊か」と答える人の割合(環境基本計画より)

<参考> 計画の基本理念における“みどりとみどりをつなぐ”イメージ



＜柱1＞推進プログラムにおける「施策の方向性」の考え方と「施策の方向性」につながるこれまでの審議や意見など							
推進プログラム		「施策の方向性」の考え方	施策の方向性	これまでの審議や意見など			
4つの柱	12のプログラム			みどりの将来像を考える視点	現計画の評価（課題）	審議会での意見	WS（H21.6）の意見
＜柱1＞市民などとの協働の推進	みどりにかかわる人の環をはぐくみます	多くの市民がみどりにかかわる活動に参加するためには、 ・実際に活動する市民、活動をコーディネート・サポートする市民など、多様な役割を担う市民を増やし、結びつけてあげること ・市民や企業などの活動が新たな展開へつながる連携を進めるために、情報提供やコミュニケーションの機会を創出すること ・緑化活動への関心の高まりへつながる各種イベントに、多くの市民が参加するように、魅力を高めていくこと ・将来の札幌市を担う子どもたちが緑化や環境への意識を高めていくことが必要である。	多様な担い手の育成とつながりづくり		リーダーの育成		まずは自分たちで。住民の知見を高めることも必要。 リーダーや調整役、地域をトータルで見れる人材が必要。
			さまざまな活動の連携		市民活動間のネットワークづくり	市民、企業、活動団体との情報の送受信を双方向に整えることが必要	
			みどりへの関心を高める交流の促進 子どもたちへの環境教育の推進	家庭や学校、地域における自然教育の普及・展開 自然体験などの学習機会の拡充	市民団体や企業などと連携してより魅力ある取組みとして展開していく 市民団体や企業などと連携してより魅力ある取組として展開していく		子供を巻き込み次の世代につなげていく。
市民に活きる活かされる取組みを進めます	市民への支援については ・様々な活動に対するそれぞれの活動状況に適した効果的な支援があること ・行政、市民、活動団体、企業などのさまざまな情報が効果的に提供されること ・市民活動が発展するために、既存施設などを活用して活動拠点の機能を充実させること ・地域や団体・企業の活動ばかりではなく、家庭における市民一人ひとりの取組みも大切にしていことが必要である。	支援メニューの充実		それぞれの活動状況に合わせた支援	ボランティアを活性化させるため、これまで以上に行政からの働きかけが必要 民間が市民に公開した緑地をたくさん確保した場合には、容積率の割増や補助金等の制度があるとよい		
		魅力的で効果的な情報の提供	誰もが簡単にわかりやすく得られるみどりに関する情報の提供	活動拠点の機能や情報の受発信など市民とのコミュニケーション推進のしくみづくり 個人や企業を含めたみどりに関する制度などの周知が必要	市民、企業、活動団体との情報の送受信を双方向に整えることが必要	今ある活動を大切にする。まずは今の活動を紹介することから。	
		活動拠点となる機能の充実		活動拠点の機能や情報の受発信など市民とのコミュニケーション推進のしくみづくり		人が集まれる場所があると良い。	
		市民一人ひとりの取組みによるみどり豊かなまちづくり	市民参画やパートナーシップによるみどりの保全・創出・活用 みどりと花を介した活動を企画運営から携わることによる街への愛着心のはぐくみ				
190万市民の知識と経験を活かします	札幌の風土・歴史・文化などの特徴あるみどりのまちづくりを進めるためには、 ・研究機関などと協力、協働によりみどりに関する調査や特殊緑化などの技術開発を進めること ・市民の知識と経験をみどりにかかわる活動や人材育成などに活用することが必要である	技術開発・調査研究の推進・支援					
		市民の知識と経験を活かしたみどりづくり					専門家や能力を持ったお年寄りをうまく使って！

推進プログラム

推進プログラム柱1 市民などとの協働の推進

協働は、これからの札幌市の豊かなみどりづくりやまちづくりに欠かすことができない重要な観点のひとつです。

この推進プログラム「市民などとの協働の推進」では、活動の担い手の育成や交流、さらには活動の連携をはぐくむことにより、みどりの将来像のひとつである「私たちが守り・はぐくむみどり」を実現するための施策を展開していきます。

主な取り組みとしては、みどりづくりにかかわる市民の環をはぐくむとともに、さまざまな市民活動をより効果的にサポートするほか、市民の方々の経験や知識を活かしたみどりづくりを推進していきます。

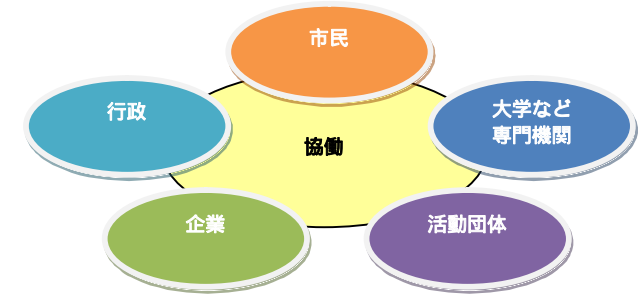
推進プログラム 柱1 市民等との協働の推進

プログラム	施策の方向性
みどりにかかわる人の環をはぐくみます	多様な担い手の育成とつながりづくり さまざまな活動の連携 みどりへの関心を高める交流の促進 子どもたちへの環境教育の推進
市民に生きる活かされる取り組みを進めます	支援メニューの充実 魅力的で効果的な情報の提供 活動拠点となる機能の充実 市民一人ひとりの取り組みによるみどり豊かなまちづくり
190万市民の知識と経験を活かします	技術開発・調査研究の推進・支援 市民の知識と経験を活かしたみどりづくり

この計画におけるみどりに関する協働の考え方

協働の担い手

緑の基本計画における協働の担い手は、「市民」、「企業」、NPOなどの「活動団体」、「大学など専門機関」、「行政」を対象とします。



< 協働の担い手 イメージ図 >

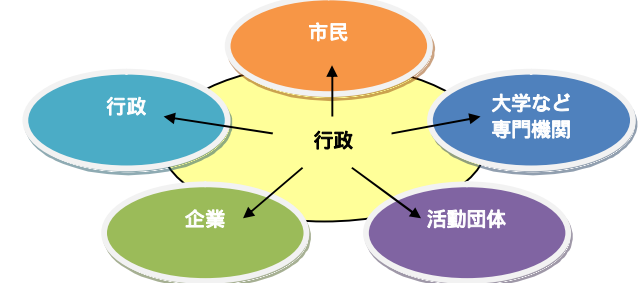
この計画における協働のスタイルとそのあり方

- みどりに関する協働のあり方はさまざまであり、この計画では、
- ・まちのみどりづくりに向けたそれぞれの活動に取組んでいる「個々の取組み」による協働。
 - ・他の担い手とのコミュニケーションを図りながら、お互いに活動への参加・協力を進めている「参加・協力の取組み」による協働。
 - ・それぞれの担い手が役割分担や責任範囲をお互いに確認している「連携の取組み」による協働。

の3つの協働のスタイルにとらえ、それらが人とみどりが輝くさっぽろのまちづくりにつながる協働の取組みとして推進していきます。

【「個々の取組み」による協働】

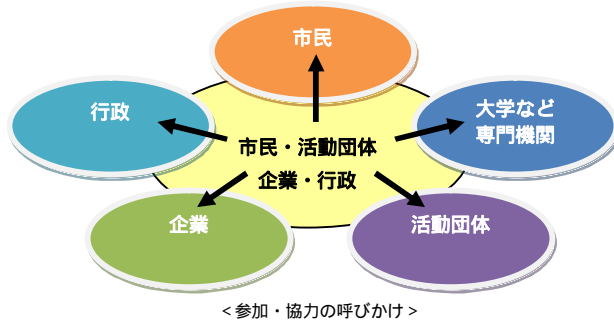
- ・担い手の関心の誘導のための情報提供や活動支援など、行政からのかかわりが強く、担い手は家庭や個々のエリアによって独自に活動を行っている。
- ・活動を通して他の担い手とのコミュニケーションづくりがなされていくことが期待される。



< 情報の発信 >

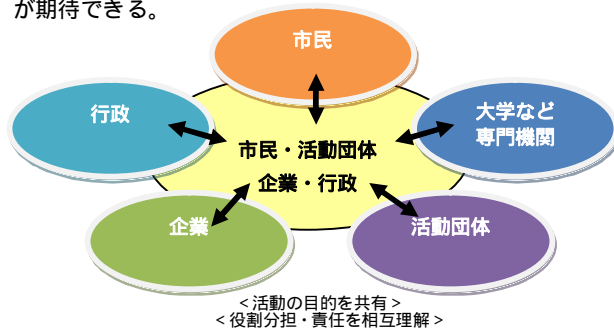
【「参加・協力の取組み」による協働】

- ・担い手が情報発信を行いながら活動を進めていくことで、担い手間のコミュニケーションや、活動を通じた交流が図られているものの、行政による活動の支援やコーディネートなどが、活動の充実・拡大に大きく影響している。
- ・活動の成熟によって、行政や他の担い手との連携した活動が行われていくことが期待できる。



【「連携の取組み」による協働】

- ・行政と担い手が、役割分担や責任分担を明確にしながら活動を進めており、担い手の自立や最小限の行政の支援によって活動が継続されている。
- ・活動の目標やインセンティブを見直すことで、活動の充実・拡大が期待できる。



みどりに関する協働に際しての行政のかかわり方

- ・協働の担い手に応じて、活動や情報発信を効果的にサポート・コーディネートしながら、それぞれの活動を大切に育てていきます。
- ・活動や人をつなぐことでネットワークづくりを進めるほか、「連携による協働」の取組みへ導いて、市民の方々の経験や知識を活かした、協働による札幌のみどりづくりに取り組んでいきます。

プログラム

みどりにかかわる人の環をはぐみます

多くの市民がみどりにかかわる活動に取組むため、活動に参加する市民を育てるとともに、市民一人ひとりのつながりを育て、市民と行政、市民と市民のネットワークづくりやコミュニケーションをこれまで以上に進め、みどりにかかわる人の環をはぐんでいきます。

また、市民がみどりへの関心をより一層高めるきっかけとなるイベントを、これまで以上に魅力ある企画のもと進めるほか、未来の札幌を担う子どもたちにみどりや自然環境の大切さを伝える取組みを進めます。

多様な担い手の育成とつながりづくり

【多様な担い手の育成】

ボランティア活動へ意欲的な市民に、花などのみどりの知識・技術の習得を進めるほか、活動団体のリーダーに対して市民活動の企画・コーディネートなどにかかわるスキルを高めるなど、多様な担い手の育成を積極的に進めます。

【つながりづくり】

市民同士や団体同士がつながりを深め、それぞれのみどりの活動がより一層充実するとともに広がりを持つように、公園ボランティア、森林ボランティア、さっぽろタウンガーデナーなどの制度を活用しながら、さまざまな分野に精通した人材を市民活動の展開に活かします。

さまざまな活動の連携

【情報提供・共有のしくみ】

市民、活動団体、学校、企業などの活動において、それぞれの活動の充実やその環の拡大、さらには新たな活動への展開を目指した連携を進めるために、それぞれの情報などを提供・共有するためのしくみを整えます。

【コミュニケーションの機会・場の創出】

それぞれの活動の連携を図るため、広く市民に活動を紹介するとともに、市民を交えた活動団体が交流するイベントを開催するなど、団体同士のほか市民と活動団体とのコミュニケーションを図る機会や場を創出します。

みどりへの関心を高める交流の促進

【みどりにかかわる人のすそ野を広げるイベントの企画・運営】

みどりに関する活動にかかわる市民や企業のすそ野を広げ、交流を促進するため、市民や活動団体、企業などの参画などを進めながら、植樹祭など森林や公園緑地における活動イベントのほか、市民ニーズを踏まえた魅力ある交流イベントなどについて企画・運営に取組みます。

【さまざまな主体によるイベントに向けた支援】

より多くの市民がイベントに参加できる機会を増やすため、本市のみならず、市民、活動団体、企業によるイベントの開催や内容の充実に向けて、それぞれのイベントに合わせた場の提供や開催情報を市民へPRするなどの支援を進めます。

子どもたちへの環境教育の推進

【各機関との連携によるイベントの開催】

将来の札幌を担う子どもたちが、みどりのみならず自然環境に対して親しみと興味、さらには理解を深めていくために、教育機関や関係部局などとの連携を図り、公園緑地や都市環境林、市民の森などにおいて、子どもにとって魅力的なイベントを開催します。

【継続的環境教育の支援・推進】

教育機関や関係部局などとの連携を図りながらガイドブック・環境副教材の作成や、市民や活動団体などが行う環境教育活動への支援に取組むことで、子どもからの継続的な環境教育を推進するとともに、活動の場や機会の提供も進めていきます。

< 計画進行管理の指標 >

- ・みどりに関する催事数・機会
- ・みどりづくりにかかわる個人・団体数
- ・連携した取組みの数
- ・イベント参加の満足度
- ・担い手としての活動の満足度

< 環境基本計画より >

- ・環境関連施設の利用者数
- ・環境教育・学習の取組み状況を把握評価するための手法体制を確立

プログラム

市民に生きる・活かされる取組みを進めます

市民一人ひとりの活動から団体による活動まで、みどり豊かなまちづくりにつながる市民の取組みを促進するため、市民の活動をサポートするための支援メニューの充実や、魅力的な情報提供、活動の場づくりなどを進めます。

支援メニューの充実

【ボランティア制度の充実】

市民自身によるみどりに関する活動をより一層推進するため、公園ボランティアや森林ボランティア、さっぽろタウンガーデナー（緑の愛護員）制度のほか、各種ボランティア制度と関連させながら、さまざまなボランティア活動のしくみやそれに対する支援のしくみを整えます。

【ボランティア活動の機会の提供】

公園ボランティアや森林ボランティア、さっぽろタウンガーデナー（緑の愛護員）といった方々の専門的な知識・技術を効果的に活かしていくために、それぞれの活動の機会を市民活動などと連携して設けます。

【インセンティブの創出、支援メニュー充実】

市民、活動団体、学校、企業などのみどりにかかわる活動を、より一層充実し拡大するため、それらの活動に対して魅力あるインセンティブの創出や支援メニューの充実を図っていきます。

魅力的で効果的な情報の提供

【みどりの情報提供】

行政や市民、活動団体、学校、企業などの情報をより効果的に提供するため、みどりに関する行政情報をホームページや、さまざまな情報媒体を活用し、魅力的でわかりやすい情報として広く発信します。

【みどりの情報の双方向ネットワーク形成】

多様な主体間のネットワーク形成を図るため、行政、活動団体、企業間などの双方向のコミュニケーションを、ホームページやパンフレットなどの活用のほか、交流する機会や意見交換する機会の開催などによって推進し、積極的な情報交換を行います。

活動拠点となる機能の充実

【活動の場の充実】

自然観察、環境教育など公園緑地や都市環境林における活動をより一層推進するために、活動団体の活動場所や内容、運営スタイルに応じて、活動の拠点機能を充実させます。

【運営体制充実のためのしくみづくり】

活動しやすく魅力的な拠点機能の充実を図るため、市民や活動団体などとの連携による運営体制を整えます。

市民一人ひとりの取組みによるみどり豊かなまちづくり

【身近なみどりづくりの主体の環を広げる】

家庭でのみどりづくりや、市民一人ひとりのみどりづくりを、地域や街のみどりづくりに結び付けていくことで、身近なみどりづくりに参画する多様な主体の環を広げていきます。

【市民一人ひとりの取組み推進】

地域の景観づくりにつなげるため、個人の住宅などにおける植樹やガーデニングに関して、栽培アドバイスや情報提供といったサポートなどを充実していくほか、コンテストの開催などによって、市民の機運を高めながら取組みを盛り上げていきます。

< 計画進行管理の指標 >

- ・ 支援メニューの数・利用数
- ・ 支援メニューや拠点機能への満足度
- ・ HP アクセス件数・満足度

プログラム

190万人市民の知識と経験を活かします

札幌の風土・歴史・文化などの特徴を活かしたみどりのまちづくりを、市民・活動団体・学校・企業などと協力・連携しながら取組みます。

技術開発・調査研究の推進・支援

【協力・連携による調査・技術開発の推進】

札幌の気候風土や街並みに適したみどりの技術づくりを進めるため、学校・研究機関・行政機関などと協力・連携によりみどりに関する調査や技術開発を進めます。

【市民の自主的調査研究の支援】

市民や活動団体によるみどりにかかわる調査研究がより一層進められるように、調査フィールドの提供などを含めて支援するしくみづくりを整えます。

市民の知識と経験を活かしたみどりづくり

札幌の風土・気候・植物・歴史・文化などの特徴を活かした花などのみどり豊かなまちづくりを進めるために、市民・活動団体・学校・企業などの知識や経験を活かしながら、みどりづくりを進めます。

< 計画進行管理の指標 >

- ・ 技術研究成果の公表
- ・ 企業・大学などとの連携事業数
- ・ 市民からの情報提供数

＜柱2＞推進プログラムにおける「施策の方向性」の考え方と「施策の方向性」につながるこれまでの審議や意見など									
推進プログラム		「施策の方向性」の考え方	施策の方向性	これまでの審議や意見など					
4つの柱	12のプログラム			みどりの将来像を考える視点	現計画の評価（課題）	審議会での意見	WS（H21.6）の意見		
＜柱2＞街中のみどりの創出とネットワークづくり	みどりの回廊づくりを進めます	連続したみどり豊かな街並みをつくるためには、 ・コリドーを軸とした骨格的なみどりのネットワークづくり、主要幹線道路などを活用した地域をつなぐみどりのネットワークづくり、地域の公園や未利用地を活用したきめ細かな地域のみどりのネットワークづくりを進めること ・街路樹を主体とした市民に親しまれる道路空間をつくとともに、理解を得ること ・植樹樹やコミュニティガーデンなどを活用した花を活かしたみどりの道路景観をつくること が必要である	みどりのネットワーク形成	河川や道路による街中とその周辺のみどりのネットワーク化での生物の移動空間の確保	多様な生物の生息・生育環境に配慮しながら道路・河川を主体とするみどりの回廊づくりを進める必要がある。	みどりのネットワークの具体化が課題 みどりがつながっていない	公共のみどりと個人のみどりを繋ぐみどりの回廊はぜひ進めて！そのためには住民と行政の接点が大大事 学校や公園などを活用し生物の多様性を目指すまちづくりをしよう 小さな川を活かしたみどりづくり 地域に波及する公園づくり 周辺だけではなく、まち中の自然のネットワークも必要 街路樹を中心とした街づくり 樹木更新を計画的に		
			市民に親しまれる街路樹づくり	街路樹による潤いある快適な道路空間を形成					
			花を活かしたみどりの美しい道路景観づくり	みどりや花に囲まれたゆとりと潤いのある暮らしの実現					
都心のみどりを充実します	都心部のみどりの質を高めるためには、 ・大通、創成川通、駅前通、北3条通を「重要なみどりの軸」とするほか、大通公園、創成川公園、市役所などを拠点として、札幌の顔にふさわしい樹木を主体とした景観をつくること ・公園や道路などの公有地の緑化のほか、各種制度の運用や民間との連携により、みどり豊かな景観をつくること ・歴史を物語る象徴となる樹木を景観重要樹木制度などの活用を通して保全していくこと ・北国特有の花を用いたコンテナガーデンなどを活用した札幌らしい街並みづくりを推進すること が必要である	札幌の顔となる景観の創出	国際都市さっぽろの顔にふさわしい自然を身近に感じられる都心の形成 みどりや花に囲まれたゆとりとうるおいのある暮らしの実現			さっぽろらしさってなんだろう。創成川や大通などはみどりの軸！			
		都心部のみどりの創出	効果的な建築物緑化による風格ある街並みの形成						
		都心部の象徴となる樹木の保存	札幌らしい緑化の推進						
地域らしい身近なみどりを創り・守り・はぐくみます	地域のみどりを保全・創出・活用していくためには、 ・家庭や活動団体、学校、企業と連携しながら地域独自のみどりをつくっていくこと ・市民や活動団体、企業などがみどりづくりに参画しやすいしくみをつくること ・みどりの保全や創出にかかわるさまざまな制度を運用するとともに、身近なみどりを地域住民がみどりにふれあう場として活用すること が必要である	花を活かしたまちづくりの推進	歴史的・象徴的・个性的なみどりの保全・創出 きめ細かなみどりの配置による快適な都市環境の創出 住宅の庭づくりなど民有地の緑化による地域緑化の推進	市民との協働による市街地のみどりづくり	街中のみどりや家の近くの小さなみどりは大大事 街中の空地は都市の大仕事なみどりと活用 緑保全創出地域制度で創出されたみどりを残していくための有効な手段の検討が必要	みどりの機能分担を踏まえて、区ごと、地域ごとのみどりづくりを 地域のみどりづくりは地域の状況に合わせた地域主体の取組みが必要 植樹樹・コミュニティガーデンでの花づくりを参加のきっかけに 個人の庭づくり。北海道スタイルで			
		身近なみどりの創出のしくみづくり	園芸活動や自然に親しむライフスタイルの定着	市民との協働による市街地のみどりづくり 既存施設や未利用地を活用					
		地域を象徴するみどりの保全・創出と活用	市街地またはその近郊における森林の活用のしくみについて検討 更なる地域制緑地の指定						

推進プログラム 柱2 街中のみどりの創出とネットワークづくり

みどりに囲まれたゆとりとうるおいのある暮らしを実現するためには、みどりを楽しむ生活文化をはぐくむとともに、歴史や文化を生かした個性ある地域のみどりをつなぎ守り育てることが大切です。

この推進プログラム「街中のみどりの創出とネットワークづくり」では、市街地のみどりを豊かにし、ネットワーク化することにより、みどりの将来像のひとつである「私たち札幌の歴史と文化が薫る個性豊かなみどり」を実現するための施策を展開していきます。

主な取組みとしては、市街地のみどりの回廊（ネットワーク）づくりを進めながら、札幌の顔である都心部のみどりの充実とそれぞれの地域の特徴を活かした身近なみどりづくりを推進していきます。

地域
私たちが住む身近な周辺
地域を指す言葉として用
います

推進プログラム2 街中のみどりの創出とネットワークづくり	
プログラム	施策の方向性
みどりの回廊づくりを進めます	みどりのネットワーク形成 市民に親しまれる街路樹づくり 花を活かしたみどりの美しい道路景観づくり
都心のみどりを充実します	札幌の顔となる景観の創出 都心部のみどりの創出 都心部の象徴となる樹木の保存 札幌らしい緑化の推進
地域らしい身近なみどりを創り・守り・はぐくみます	花を活かしたまちづくりの推進 身近なみどりの創出のしくみづくり 地域を象徴するみどりの保全・創出と活用

プログラム みどりの回廊づくりを進めます

連続したみどり豊かな街並み、災害に強い都市環境をつくるため、みどりのネットワークづくりを、「主要な公園・緑地・道路・河川による6つのコリドー」、「主要幹線を中心としたみどりのネットワーク」、「地域の公園・緑地・民有地による身近なみどりのネットワーク」を軸にして、市民・活動団体・企業と連携しながら進めます。

また、市民にとって身近な道路空間がより市民に親しまれるように、適切な街路樹の育成と花の活用を進め、北国らしいみどり豊かな道路景観づくりに取組みます。

みどりのネットワーク形成

【コリドーによるみどりのネットワーク】

環状グリーンベルトに囲まれた市街地におけるみどりの連続化を図るため、豊平川を軸にした豊平川コリドーのほか、主要な公園・緑地や道路・河川による新川コリドー、創成川コリドー、北東コリドー、大通コリドー、南東コリドーの6つの「コリドー」を軸とした市街地の骨格的なみどりのネットワークを創出します。

【地域をつなぐみどりのネットワーク】

特徴ある地域の取組みを中心（コア）として、主要幹線などを主体にその取組みを広げていくことで、地域をつなぐみどりのネットワークを創出します。

【身近なみどりのネットワーク】

市民・活動団体・企業との連携により、地域の公園・緑地・公共施設、民有地や未利用地などにおけるきめ細かな地域のみどりのネットワーク化を図ります。

【制度の活用】

地域制緑地制度の活用などのさまざまな手法を用いた緑化を進めることで、みどりのネットワーク化を図ります。

地域制緑地制度

- ・ 特別緑地保全地区、保存樹など

市民に親しまれる街路樹づくり

【街路樹の質の向上】

「コリドー」や「みどりのネットワーク」として位置づけられる主要幹線では、街路樹を主体として市民に親しまれる道路空間を目指し、街路樹の質が向上する計画的な管理・育成・樹木の更新を行っていきます。

【街路樹のPRと保護・育成】

市民とともに街路樹を守り・育てるため、街路樹の効果や効用をPRしながら、街路樹に対する市民のより一層の理解を得ていくとともに、植栽環境に適した管理・育成・樹木の更新を行っていきます。

花を活かしたみどりの美しい道路景観づくり

北国らしい道路空間の創出を目指して、街路樹の保全と育成に加え、地域住民や企業との連携を通して植樹花壇やコミュニティガーデンのほか、コンテナガーデンなどのさまざまな手法を用いた緑化のしくみづくりを進めることで、街並みと一体となった連続的な花を活かしたみどりの道路景観づくりを、まちづくり活動の一環として推進します。

< 計画進行管理の指標 >

- ・ コリドーの整備延長
- ・ 花や街路樹によるネットワーク延長
- ・ 街路樹や道路景観の満足度

プログラム

都心のみどりを充実します

札幌の顔である都心部を「環境首都さっぽろ」にふさわしい街並みに作り上げるため、大通公園や創成川公園のほか札幌駅前通などの道路空間による軸と、公共施設による拠点のみどりを主体に、民有地を活用したみどり豊かな景観づくりに取組みます。その際、貴重な樹木などを守るとともに、北国特有の色鮮やかな花を活用するなど、札幌らしい緑化を進めます。

札幌の顔となる景観の創出

札幌の顔として市民が誇りに思い、訪れる人が潤いと魅力を感じられる都心空間の創出のために、大通公園などを「特に重要なみどりの軸」、西2丁目線などを「その他の主なみどりの軸」とするほか、市役所本庁や時計台、道庁前庭、北大植物園などを拠点として、札幌の顔となる都心部における樹木を主体とした麗しい景観を創出します。

特に重要なみどりの軸

大通公園、創成川公園、駅前通、北3条通

その他の主なみどりの軸

西2丁目線、西3丁目線、北4条通、北5条通など

都心部のみどりの創出

【土地利用に合わせたみどりの創出】

みどりを創出するスペースの少ない都心部において、さまざまな空間でのみどりの創出を進めるため、公園緑地や道路などの公有地のほかに、創世 区などのまちづくりにあわせて質の高いみどりを確保していきます。

【民有地での緑化の推進】

地区計画などの各種制度の運用、他部局や民間との連携のほか、さまざまな支援を活用して、事業者へのインセンティブを確保しつつ、景観に配慮した建築物緑化やオープンスペースの緑化を進めるなど、民有地を活用したみどり豊かな景観づくりを推進します。

都心部の象徴となる樹木の保存

都心部の象徴的な景観を創りだすとともに、札幌の歴史を物語る貴重な樹木などの保全を、公有地のみならず民有地においても進めます。また、景観や環境づくりのほか、人への安らぎや憩いを与えるといった都市におけるみどりの機能の大切さを積極的にPRすることで、市民の理解と協力を得ながら、景観重要樹木や保存樹木の制度により保全に取り組めます。

札幌らしい緑化の推進

【コンテナガーデンによる街並みづくりの推進】

都心部における札幌らしい景観づくりの取組みとして、北国特有の色鮮やかな花を用いたコンテナガーデンなどを活用した街並みづくりを、市民や企業との連携のもと進めます。

【建築物緑化、札幌らしい緑化の推進】

北国の積雪寒冷地の気候に適合した建築物緑化技術の開発や建築物緑化導入に対する事業者への支援制度を整えながら、公有地のみならず民有地においても、気候風土や都市環境に合った札幌らしい緑化を進めていきます。

< 計画進行管理の指標 >

- ・ 緑視量
- ・ 緑被率
- ・ 軸の形成延長
- ・ オープンスペース面積
- ・ 建築物緑化数
- ・ 都心のみどりの満足度

プログラム

地域らしい身近なみどりを創り・守り・はぐくみます

家庭をはじめとする地域の様々なオープンスペースにおいて、各種制度を活用するほか、市民・活動団体・学校・企業などと連携しながら、地域のみどりを保全・創出と活用を進めていくことで、地域の歴史や文化と結びついた景観づくりや、災害に強い地域環境づくりを進めるとともに、地域のコミュニティの醸成にもつなげていきます。

花を活かしたまちづくりの推進

花を活かしたみどりづくりをきっかけとした特徴ある地域づくり・まちづくりを目指して、さまざまな施策を活用しながら、家庭や地域・活動団体・学校・企業の活動と連携し、地域の歴史や文化と結びついた独自の景観づくり、さらには、地域コミュニティの醸成へもつながる取組みを推進します。

身近なみどりの創出のしくみづくり

【市民・活動団体が参画しやすいしくみづくり】

植樹樹での花づくりや未利用地でのコミュニティガーデンづくり、公共施設や公共未利用地、民間の空き地などにおける地域のみどりづくりなど、市民や活動団体が、主体的に地域のみどりづくりに参画しやすいしくみづくりを進めます。

【企業が参画しやすいしくみづくり】

地域におけるみどりづくりに対する企業の参画を促すため、活動に対するインセンティブの創出やみどりづくりに関する情報提供を行うなど、企業のCSR活動を支援するしくみづくりを進めます。

【市民一人ひとりの取組み推進】

みどり豊かなまちづくりに向け、公園緑地や街路樹の整備といった行政の取組みに加えて、公園、植樹樹、未利用地など、地域のオープンスペースを活用した市民による植樹やガーデニングなどの地域や家庭における市民一人ひとりの取組みを積極的に進めます。

地域を象徴するみどりの保全・創出と活用

【各種制度の運用】

良好な景観維持に向けて、保存樹木制度や特別緑地保全地区の指定、地区計画などみどりの保全・創出にかかわる各種制度を、市民への普及啓発を図りながら積極的な運用を進め、地域に親しまれている樹林地などの保全や、身近なみどりづくりを総合的に推進します。

【身近な樹林地活用のための整備】

地域に親しまれている樹林地を、地域住民がみどりとふれあう場として積極的に活用できるように効果的に整備を進めていきます。また、市民が森の活用を通してみどりを大切に守り育てる意識を、より一層高めながら、地域全体のみどりの資源（身近な森）として次の世代に引き継いでいきます。

【緑保全創出地域制度の充実】

民有地のより一層の緑化を推進するために、さまざまな緑化手法についての情報提供を行うとともに、緑保全創出地域制度の充実を進めます。

< 計画進行管理の指標 >

- ・ 地域制緑地面積
- ・ 学校、地域（町内会など）との協働によるみどりづくり数
- ・ 公共地等の緑化数
- ・ 保存樹木の数
- ・ 意識調査（花・街路樹などに関する満足度調査、感じ方調査）
身近な地域においてみどりが豊かであると感じている市民の割合

＜柱3＞推進プログラムにおける「施策の方向性」の考え方と「施策の方向性」につながるこれまでの審議や意見など							
推進プログラム		「施策の方向性」の考え方	施策の方向性	これまでの審議や意見など			
4つの柱	1,2のプログラム			みどりの将来像を考える視点	現計画の評価（課題）	審議会での意見	WS（H21.6）の意見
＜柱3＞街をとりまくみどりの保全・活用とネットワークづくり	みどりの保全や創出による環状グリーンベルトづくりを進めます	環状グリーンベルトづくりを進めるためには、 ・市民参加の植樹祭などによる新たな森の創出や、拠点公園をつなぐ森林、農地、草地などを、条例などの運用により保全すること ・広域的な視点に配慮しながら、山地系の地域は、公有地化のほか、市民、活動団体、企業などとの協働による森林の育成管理、平地系の地域は、農地の持続的な利用や草地の保全のため、関連する各種制度や部局間の連携に取り組むこと ・市民、活動団体、企業などとの協働による持続的な森林の育成管理に取組む環境をつくること が必要である	環状グリーンベルト構想の推進	河川や道路による街中とその周辺のみどりのネットワーク化での生物の移動空間の確保 植樹活動などの市民による地球環境保全への取組みの推進	多様な生物の生息・生育環境に配慮しながら道路・河川を主体とするみどりの回廊づくりを進める必要がある	みどりのネットワークの具体化が課題 みどりがつながっていない 環状グリーンベルトに加え、もっと広域的な視点も入れるべき 「みどりの回廊づくり」という言葉はよい。それが、森林だけではなく札幌の環境に即したみどり（草原、湿地、川など）を含めて、「札幌本来の生態系ダイナミズムを取り戻していく」ということを掲げてほしい。	横断的な推進体制の確立が必要 グリーンベルトづくりを支える人のネットワークづくり 行政の取組み（みどり保全の優遇制度、効果的な行政の施策） みどりの連続性が大切
			自然環境の保全と良好な都市環境の創出	市民にとって心のふるさとである藻岩山と豊平川の美しい景観の維持 街を取り巻く山並みや自然豊かな河川の風景の保全 街の周辺や街中に残る自然風景・田園風景による街のうらおいの創出	緑地や農地の保全のしくみを検討する必要がある	市街化調整区域のみどりや北東部農地の位置づけが課題 札幌市にとって草原は重要な環境のひとつ 生態系の保全に関しては、低湿地帯の保全を視野に入れるべき	山地系、平地系で場所ごとのグリーンベルトのイメージ・役割を共有しながら進める 広域圏でのつながりを考えた計画に 郷土種や消えゆくみどりの保全も考える 横断的な推進体制の確立が必要 行政の取組み（みどり保全の優遇制度、効果的な行政の施策）
			森林の持続的な育成管理の推進		効率的で適正な管理のしくみ		行政の取組み（みどり保全の優遇制度、効果的な行政の施策）
身近な森の活用を進めます	森の活用を進めるためには、 ・森の手入れ、自然観察、環境教育など、多様な市民活動に必要な機能の充実や効果的な支援をすること ・森林と親しむ場をつくることや魅力あるイベントなどの実施により、市民が森林とふれあうきっかけをつくること ・間伐材や落葉などのみどり資源を持続的に循環利用するしくみをつくること が必要である	市民活動のための機能や支援の充実	さまざまなみどりとのかわりによる、環境に対する意識の醸成	市街地近郊における森林の活用のしくみについて検討する必要がある。		管理活用のための人材育成	
		森林と親しむ場や機会の充実	みどり資源の有効利用の推進	みどりのリサイクルの取組みによる、循環型・低負荷型の都市形成		森を大切に思う気持ちも大事 情報発信・PRがまず必要	
地球環境や生物多様性に配慮したみどりの保全と創出を進めます	地球環境や生物多様性に配慮するためには、 ・効果的な情報発信や環境教育などにより、市民意識を醸成させること ・低炭素社会の実現に向け、二酸化炭素吸収源である森林の保全や整備を進めること ・生物の生息、生育地の保全と創出に努めるとともに、生息地の連続性を確保すること が必要である	地球環境や生物多様性の保全に向けた意識の醸成	さまざまなみどりとのかわりによる、環境に対する意識の醸成 河川や道路による街中とその周辺のみどりのネットワーク化での生物の移動空間の確保	多様な生物の生息・生育環境に配慮しながら道路・河川を主体とするみどりの回廊づくりを進める必要がある	みどりに対する価値観が人それぞれ違うことから、みどりについて話し合える多様な機会が必要 市民への広報などとともに、気軽に情報や意見をメールできるインターネットの充実	自然についての知識を持つ	
		低炭素社会の実現に向けた取組みの推進	森林の保全と創出による、大気浄化や水質の保全 より多くの身近なみどりが、二酸化炭素吸収源として大きな効果を発揮 植樹活動などの市民による地球環境保全への取組みの推進				
		生物多様性に配慮したみどりの保全と創出	樹林地・緑地の保全・創出による、多様な動植物の生息・生育空間、生態系の保全 河川や道路による街中とその周辺のみどりのネットワーク化での生物の移動空間の確保	多様な生物の生息・生育環境に配慮しながら道路・河川を主体とするみどりの回廊づくりを進める必要がある	生態系や自然との共存・共生は重要な課題 生物多様性にとってのみどりの質が不足 国は生物多様性に関して自治体に具体目標を求めることから、生態系保全計画は難しいが緑の基本計画にも ちりばめることが必要	生物の保全は絶対に必要！メリハリある空間づくりを	

推進プログラム 柱3
街をとりまく、みどりの保全・活用とネットワークづくり

札幌市が進める環状グリーンベルト構想到に位置づけられている山岳丘陵地の森林と平地に広がる草地や農地などは、札幌固有の景観や良好な都市環境の形成に欠くことができない大切なみどりです。

この推進プログラム「街をとりまく、みどりの保全・活用とネットワークづくり」では、市街地近郊のみどりを保全・活用しネットワーク化することにより、みどりの将来像のひとつである「地球環境を守り、私たちと自然が共生するみどり」を実現するための施策を展開していきます。

その取組みとして、環状グリーンベルト構想を引き続き推進するとともに、市民等による身近なみどりの保全と活用、地球環境や生物多様性に配慮したみどりの保全と創出を推進していきます。

推進プログラム3 街をとりまく、みどりの保全・活用とネットワークづくり	
プログラム	施策の方向性
みどりの保全や創出による環状グリーンベルトづくりを進めます	環状グリーンベルト構想の推進 自然環境の保全と良好な都市環境の創出 森林の持続的な育成管理の推進
身近な森の活用を進めます	市民活動のための機能や支援の充実 森林と親しむ場や機会の充実 みどり資源の有効利用の推進
地球環境や生物多様性に配慮したみどりの保全と創出を進めます	地球環境や生物多様性の保全に向けた意識の醸成 低炭素社会の実現に向けた取組みの推進 生物多様性に配慮したみどりの保全と創出

プログラム
みどりの保全や創出による環状グリーンベルトづくりを進めます

札幌の市街地を取り巻く森林・草地・農地などについて、周囲の街との連携や広域的な位置づけを踏まえながら、それぞれの特性に応じて保全するとともに、新たな森づくりなどみどりの創出に努めます。

また、それらの公益的な機能の効果的な発揮に向け、市民・活動団体・企業などとの連携による持続的な育成や管理に取組むことにより、札幌固有の景観や良好な都市環境を形成する環状グリーンベルトづくりを進めます。

環状グリーンベルト構想の推進

【制度の運用】

環状グリーンベルトの形成を推進するため、拠点となる公園緑地をつなぐ森林、草地、農地などについて、札幌市緑の保全と創出に関する条例に基づく緑保全創出地域制度などによるみどりの保全に努めます。

【新たな森づくりの推進】

環状グリーンベルトの拠点となる公園緑地の造成に合わせて、植樹祭などの植樹活動の機会や場を提供し、市民、活動団体、企業などとの協働による植樹・育樹、森の活用・保全を推進することにより新たな森を創出します。

【河川緑地、農地の保全】

河川を主体とした良好な緑地の保全や農地の持続的な利用について、関連する各種制度や部局間の連携による取組みを推進します。

【市民・活動団体・企業との協働】

市民・活動団体・企業との協働による森づくりや自然環境の保全を進め、環状グリーンベルトの形成を推進します。

自然環境の保全と良好な都市環境の創出

【自然環境の保全・創出のための制度の充実】

自然環境の保全とより良好な都市環境を創出するために、市内の自然環境やみどりの現況を踏まえるとともに、広域的な視点にも配慮しながら、各種制度の充実を進めていきます。

【山地系のみどりの保全と創出】

山地系のみどり(山岳丘陵地の森林)においては、森林の特性に応じて各種制度の活用や市民・活動団体・企業などとの協働による持続的な育成や管理を進めます。

【平地系のみどりの保全と創出】

平地系のみどり(農地・草地や河川など)においては、農地の持続的な利用や草地・河川などにおける自然環境の保全などについて、各種制度の活用や部局間の連携によって取り組みます。

森林の持続的な育成管理の推進

【制度の活用による適切な森林の育成管理】

森林の持つ多様な公益的機能を保全・発揮・回復するために、各種制度の活用などによる適切な森林の育成管理を進めます。

【市民などとの協働による森林の育成管理の推進】

市民・活動団体・企業などとの協働による持続的な森林の育成管理を進めるため、市民意識の醸成やボランティア活動への支援、企業の取り組み促進に向けたインセンティブ創出などを進めるなど、より多くの市民・活動団体・企業が森林の育成管理に参画できるしくみづくりを進めます。

< 計画進行管理の指標 >

- ・都市環境林取得面積
- ・植樹への参加者数
- ・市内のみどりによる CO2 吸収量
- ・カーボンオフセット植樹面積

プログラム

身近な森の活用を進めます

市民による保全や活用に関する活動のより一層の推進のため、都市環境林、市民の森などで、活動の場としての機能の充実や活動に対する支援の充実を図ります。

また、みどり資源の利活用などに対するより多くの市民の理解を得るための取組みを推進し、その場づくりや機会の提供を進めます。

市民活動のための機能や支援の充実

【森をフィールドとした市民活動に必要な機能の充実】

都市環境林や市民の森などが、市民活動のフィールドとしてより一層活用されるよう、森の手入れ、自然観察、環境教育といった多様な活動にかかわる情報提供や交流などの機能を、市民ニーズを踏まえて充実します。

【森の保全・活用のための人材育成と活用、効果的な支援】

身近な森の保全と活用を推進するため、森にかかわる知識や技術を持った人材の育成や活用を進めるとともに、市民・活動団体・企業などによる森の保全・活用の取組みに対して効果的な支援を行っていきます。

森林と親しむ場や機会の充実

【身近な森林と親しむ場づくり】

普段、森林とのかかわりが少ない市民に対して、森林の持つ役割の大切さや自ら守り育てることの重要性などに対する理解や意識の醸成、行動を起こす契機づくりのために、活動団体や企業、関係機関と連携しながら、白旗山都市環境林などの拠点となる場の充実や効果的な管理運営を進め、身近な森林と親しむ場づくりを進めます。

【身近な森林と親しむ機会の充実】

より多くの市民が気軽に森林に親しみ楽しむことができるよう、札幌の森林に関する積極的な情報発信を進めながら、多様な市民ニーズを踏まえた魅力あるイベントの実施やプログラムづくりなど森林に親しむ機会の充実を図ります。

みどり資源の有効利用の推進

循環型社会の実現に向けて、市民意識の醸成や普及啓発を進めるとともに、公園や都市環境林などの間伐材、剪定枝、落葉、刈草などのみどり資源の有効利用による木質系バイオマス燃料などとして、持続的な資源の循環利用のしくみづくりを進めます。

< 計画進行管理の指標 >

- ・ 協働による森の育成活動数・参加者数・満足度
- ・ 森に親しむ機会の数・満足度

プログラム 地球環境や生物多様性に配慮した みどりの保全と創出を進めます

地球環境や生物多様性の保全、低炭素社会形成に対する市民一人ひとりの理解の高まりとともに、地球環境や生物多様性に配慮したみどりの保全と創出を進めるために、市民・活動団体・企業との協働のもと、環境教育の取り組みやみどりの保全や創出を進めます。

地球環境や生物多様性の保全に向けた意識の醸成

【効果的な情報発信】

多くの市民が地球環境や生物多様性の保全へより関心を高めていくように積極的かつ効果的な情報発信を進めます。

【環境教育のための場・機会の充実と人材の活用】

学校・関係機関・関連部局・活動団体との協働による、森林などのみどりを活用した環境教育の推進や体験学習の場や機会の充実を積極的に図るとともに、森林ボランティアや環境保全アドバイザーなどの人材の活用を進めます。

低炭素社会の実現に向けた取り組みの推進

【二酸化炭素吸収・固定源としての森林の保全と創出】

地球温暖化の防止などみどりの保全と創出を通じた低炭素社会の実現に向け、二酸化炭素の吸収・固定源となる森林の保全や創出を進めます。

【協働の取り組みの推進】

低炭素社会の実現に向けた市民や企業の意識を高めながら、カーボンオフセットのための植樹や育樹活動など、みどりを通じた環境負荷低減の取り組みを、市民・活動団体・企業などとの協働により推進します。

生物多様性に配慮したみどりの保全と創出

生物多様性の保全を図っていくために、札幌のみどりの現状や特性などを踏まえ、自然環境の保全や、森林、草地、水辺地などの保全や創出に努めるとともに、公園緑地や河川などを活用した生物の生息・生育地の連続性の確保に努めます。また、外来種の扱いの方向性については、大学など専門機関、市民、活動団体などの意見をもとに個々に判断していきます。

< 計画進行管理の指標 >

- ・市内のみどりによる CO2 吸収量
- ・カーボンオフセット植樹面積
- ・植樹への参加者数

< 環境基本計画より >

- ・市民との協働による植樹本数

<柱4>推進プログラムにおける「施策の方向性」の考え方と「施策の方向性」につながるこれまでの審議や意見など

推進プログラム		「施策の方向性」の考え方	施策の方向性	これまでの審議や意見など			
4つの柱	12のプログラム			みどりの将来像を考える視点		現計画の評価（課題）	審議会での意見
＜柱4＞ 公園の魅力の向上	安全安心と地域コミュニティを大きく含む公園の管理・運営を進めます	市民が安全安心な公園を利活用するためには ・安全を重視した適正な公園の維持管理を計画的に進めること ・地域の状況に合った公園の運営や施設の見直しを行うこと ・公園の維持管理や運営に市民が参画することや企業などの多様な主体が参画できるしくみを整えることが必要である	安全と効率を重視した公園の管理 市民の満足度を高め愛着を大きく含む公園の運営と施設の見直し 公園の管理・運営への市民参画の推進	公園遊具などにおける事故を防いでいる安心安全なまちづくり	公園の利活用や効果的・効率的な維持管理の取組みを進める 公園の利活用や効果的・効率的な維持管理の取組みを進める		維持管理がローコストな公園づくり 指定管理者の評価には市民意見も
	人・まち・環境に役立つ公園の機能を充実します	公園のさまざまな機能を充実させるためには、 ・総合公園や運動公園などの地域における機能の充足度を踏まえた適正な配置と機能の分担の見直しを図り再整備すること ・地区公園、近隣公園、街区公園などの身近な公園には地域のニーズに合わせた機能分担を図り、再整備などにより地域に必要な機能を充実すること ・バリアフリーやユニバーサルデザインを取り入れた公園づくりを進めること ・みどりを主体とした街並みに適した良好な都市景観に寄与する公園づくりを進めること ・避難路、避難地、延焼防止などの機能が発揮される災害から市民を守る公園づくりを進めること ・地球環境や生物多様性などに配慮した環境保全に資する公園づくりを目指すことが必要である	大規模公園の機能の充実 身近な公園の効果的な配置 すべての人にやさしい公園づくり 都市景観に配慮した公園づくり 災害に強いまちづくりに資する公園づくり 環境保全に資する公園づくり	スポーツ、休養、散策などの余暇活動のための公園や緑地の適正な配置・ネットワーク化 災害時の救援活動拠点としての公園の適正な配置 地すべりや市街地の水害防止、騒音・振動を緩和する緑地の適正な配置による健全な生活空間の確保 スポーツ、休養、散策などの余暇活動のための公園や緑地の適正な配置・ネットワーク化 災害時の救援活動拠点としての公園の適正な配置 地すべりや市街地の水害防止、騒音・振動を緩和する緑地の適正な配置による健全な生活空間の確保 ノーマライゼーションの思想に基づいたみどりづくり バリアフリー、ユニバーサルデザインの定着 公園遊具などにおける事故を防いでいる安心安全なまちづくり	新しく緑地をつくるために用地を取得して維持管理する費用の確保は難しい 大きな公園を造るにあたり、多くのランニングコストがかかることから、経済性の視点が重要	公園充実化のために必要な視点（ネットワーク、生物多様性、防災機能、北方型公園、ユニバーサル、みどりの空間確保） 公園充実化のために必要な視点（ネットワーク、生物多様性、防災機能、北方型公園、ユニバーサル、みどりの空間確保） 公園充実化のために必要な視点（ネットワーク、生物多様性、防災機能、北方型公園、ユニバーサル、みどりの空間確保） 公園充実化のために必要な視点（ネットワーク、生物多様性、防災機能、北方型公園、ユニバーサル、みどりの空間確保）	公園を通した地域づくり ハードよりソフト＝地域の力で。そのためには地域住民の覚悟も必要。 押し付けではない行政のサポートが必要
	市民ニーズを踏まえた利活用の促進を図ります	より多くの人々が公園を利活用するためには ・市民や観光客が楽しめる魅力ある公園づくりを進めること ・市民や活動団体などと連携しながら公園を活用することや活動への支援のしくみを整えること ・スキーや雪のたい積など冬季間の活用を促進することが必要である	市民や観光客にとって魅力ある公園づくり 市民に親しまれ活用される公園づくり 冬季間における公園の活用の促進	公園緑地を活用した余暇活動による心身の健康増進 みどりを通した人とのふれあいによる、心のやすらぎなどの精神的な充足感の向上 公園緑地を活用した余暇活動による心身の健康増進 みどりを通した人とのふれあいによる、心のやすらぎなどの精神的な充足感の向上 公園緑地を活用した余暇活動による心身の健康増進 みどりを通した人とのふれあいによる、心のやすらぎなどの精神的な充足感の向上 快適な冬のくらしに向けたオープンスペースの活用	公園の利活用や効果的・効率的な維持管理の取組みを進める 公園の利活用や効果的・効率的な維持管理の取組みを進める		観光資源であるモエシ。まずは自分たちで楽しもう もっと情報発信を ミニパークセンター構想を目指す 現代のニーズ・地域ごとのテーマで考える

**推進プログラム 柱4
公園の魅力の向上**

公園は、美しい都市景観を形成し、訪れる人に安らぎや潤いなどの心理的効果をもたらすほか、災害時の避難場所として利用され、都市の安全性の向上に重要な役割を果たしています。これらの役割を効率的・効果的に発揮させるため、厳しい経済状況や財政見通しを踏まえ、既存ストックの有効活用に力点を置いた施策の方向転換が必要です。

この推進プログラム「公園の魅力の向上」では、周囲の環境や市民（住民）のニーズに対応しながら、公園の機能の見直しや充実を進めることにより、みどりの将来像のひとつである「私たち誰もが安心して活用できる人に優しいみどり」を実現するための施策を展開していきます。

主な取組みとしては、市民が安全かつ安心して利用できる公園の管理運営を進めるとともに、公園の機能を充実させ、市民の声を踏まえた公園の利活用を進めます。

推進プログラム4 公園の魅力の向上	
プログラム	施策の方向性
安全安心と地域コミュニティをはぐくむ公園の管理・運営を進めます	安全と効率を重視した公園の管理 市民の満足度を高め愛着をはぐくむ公園の運営と施設の見直し 公園の管理・運営への市民参画の推進
人・まち・環境に役立つ公園の機能を充実します	大規模公園の機能の充実 身近な公園の効果的な配置 すべての人にやさしい公園づくり 都市景観に配慮した公園づくり 災害に強いまちづくりに資する公園づくり 環境保全に資する公園づくり
市民のニーズを踏まえた利活用の促進を図ります	市民や観光客にとって魅力ある公園づくり 市民に親しまれ活用される公園づくり 冬季間における公園の活用の促進

**プログラム 安全安心と地域コミュニティをはぐくむ
公園の管理・運営を進めます**

安全と効率を重視した公園の管理と、地域特性や市民ニーズを踏まえた市民の満足度を高め愛着をはぐくむ公園運営と施設の見直しを進めるとともに、市民・活動団体・企業などと連携した公園管理・運営を進めます。

安全と効率を重視した公園の管理

市民が安心して公園を利用できるよう、安全を重視した管理を進めるとともに、より一層の計画的かつ効率的な維持管理運営や樹木更新に取り組むことで施設などの長寿命化を図ります。

市民の満足度を高め愛着をはぐくむ公園の運営と施設の見直し

市民の満足度を高めるために、それぞれの公園において、市民ニーズを把握するなど、地域の状況を踏まえつつ、利用者の視点から公園の運営と施設を見直し、市民に愛される公園づくりを進めます。

公園の管理・運営への市民参画の推進

【多様な市民による管理運営への参画の推進】

個人・団体などの多様な市民による公園の管理や運営への参画を推進することで、市民がみどりとふれあうことができる機会を増やすとともに、公園における市民の活動を起点とした地域コミュニティの醸成につなげていきます。

【協働による管理運営のためのしくみづくり】

設置許可や PFI などの民間資金の活用、企業の社会的責任（CSR）へのインセンティブ（行動を促す動機づけ）の導入などを検討し、多様な主体による公園管理のしくみを検討し、協働による公園の管理運営を推進します。

< 計画進行管理の指標 >

- ・ 公園再整備数
- ・ バリアフリー化率
- ・ 防災公園の整備数

プログラム

人・まち・環境に役立つ公園の機能を充実します

公園の充足度のほか、地域特性や市民ニーズを踏まえて公園の配置や機能の分担を見直し、環境保全、まちの景観づくり、災害に強いまちづくり、市民のレクリエーション活動の促進などに寄与する公園機能の充実を効果的に進めるとともに、誰もが利用しやすい公園づくりを進めます。

大規模公園の機能の充実

環境保全、景観づくり、災害に強いまちづくり、市民のレクリエーション活動の促進など公園が持つ機能について、地域の充足度を踏まえたうえで、配置や機能のあり方を検討しながら既存の大規模公園（都市基幹公園など）の再整備を進めます。

身近な公園の効果的な配置

【エリアごとの機能分担の見直しを踏まえた公園の再整備】

身近な公園（住区基幹公園など）については、地域ニーズや評価、地域特性や配置状況などを踏まえ、エリアごとに機能の分担を図ったうえで再整備を進めます。

【公園が少ないエリアでの公園づくり】

旧市街地など公園が少ないエリアでは、さまざまなオープンスペースを活用して、公園機能の確保を進めていきます。

すべての人にやさしい公園づくり

すべての人にやさしい公園づくりを目指し、高齢者や障がい者などのニーズを踏まえ、多様な市民の参画のもと、どこでも・だれでも・自由に・使いやすい公園づくりを進めます。

都市景観に配慮した公園づくり

みどりを主体とした街並みを目指し、公園の位置や規模、周囲の環境などを踏まえながら、適正な樹木更新や植栽配置、花壇づくりなど、札幌の都市景観に配慮した公園づくりを行います。

災害に強いまちづくりに資する公園づくり

【災害に強い公園づくり】

災害に強いまちづくりを推進するため、防災計画に基づいた避難路、避難地としての公園の機能に加え、樹林などによる延焼防止など、市街地における公園の効果的な防災機能の充実を図り、関係部局や地域と連携しながら、安全・安心な公園づくりを推進します。

【公園緑地の防災機能のPR】

災害時における公園緑地の重要性について、市民の理解を深めるとともに、公園緑地における防災機能のPRを進め、防災面でのみどりの効果についての市民理解を深めます。

環境保全に資する公園づくり

地球環境や生物多様性の保全のため、公園の位置や規模、周囲の環境などを踏まえ、公園内の樹木の維持や適正な植樹を行うなど、生物の生息に配慮しながら環境保全に資する公園づくりを進めます。

< 計画進行管理の指標 >

- ・公園満足度
- ・施設長寿命化更新実施率

プログラム

市民ニーズを踏まえた利活用の促進を図ります

市民のみならず観光に訪れた人々にとってより一層の魅力を感じる拠点公園づくりや、市民が安心して集い・安らぎ・楽しめる地域の公園づくりを、市民・活動団体・企業と連携して進めます。

市民や観光客にとって魅力ある公園づくり

拠点公園などの主要な公園において、市民ニーズを踏まえ、指定管理者や活動団体、企業との連携により公園の特徴を活かした魅力を一層高めることで、市民や観光客がこれまで以上に楽しむことができる魅力的な公園づくりを推進するとともに、より効果的なPRを進めます。

市民に親しまれ活用される公園づくり

【市民との連携による公園活用の推進】

気軽に活用できる公園があるまちづくりのために、主要な公園のほか、地域の公園緑地においても市民のニーズを踏まえながら、市民や活動団体などとの連携による公園の活用を推進します。

【公園を活用した市民活動の支援】

公園をフィールドとした市民や活動団体の活動に対する支援のしくみづくりのほか、既存ストックの活用などにより活動を支える場づくりを進めます。

冬季間における公園の活用の促進

快適な冬の暮らしを実現するために、スキーや雪遊びなどに活用できるオープンスペースや施設の配置に配慮するとともに、雪置き場としての利用などについての冬季間における公園の活用ルールをつくり、より一層市民に活用される公園づくりを推進します。

< 計画進行管理の指標 >

- ・観光客の来訪者数
- ・活動を支える場の数
- ・公園の魅力度
- ・公園での活動の数・満足度